

千葉県銚子市沖における協議会（第4回）

○日時

令和4年11月21日（月）10時30分～12時00分

○場所

京成ホテルミラマーレ 6階ローズ（一部の構成員はWEB会議形式にて参加）

○参加者

経済産業省資源エネルギー庁風力政策室 石井室長
国土交通省港湾局海洋・環境課海洋利用調査センター 榑原所長
農林水産省水産庁漁港漁場整備部計画課 森田計画官
千葉県商工労働部 野村部長
銚子市 越川市長
旭市企画政策課副主幹
千葉県漁業協同組合連合会 坂本代表理事会長
銚子市漁業協同組合 和田副組合長理事
海匠漁業協同組合 土屋代表理事組合長
関東旅客船協会 宮内氏
東京理科大学理工学部土木工学科 菊池教授（欠席）
一般財団法人日本エネルギー経済研究所 工藤理事
一般社団法人海洋産業研究・振興協会 塩原事務局長兼研究部長
一般社団法人海洋エネルギー漁業共生センター 渋谷理事
足利大学工学部大学院 永尾特任教授
千葉銚子オフショアウィンド合同会社 伊原プロジェクトダイレクター
環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 豊村室長補佐（※）
（※オブザーバー）

○議題

今回の趣旨説明

経済産業省（事務局）

●2021年12月に三菱商事洋上風力株式会社、三菱商事株式会社、株式会社シーテックで構成される「千葉銚子オフショアウインド合同会社」を発電事業者として選定した。今回から構成員として加わっていただいている。

●本協議会は、基本方針に基づき、透明性確保や地域との連携を促進する等の観点から、原則として公開で開催するものである。

公開方法についてはこれまで、

- ・会議の様子をYouTubeで配信する
- ・議事録、議事要旨を公表する
- ・一般の方やマスコミ用の傍聴席を設置する

といった方法を取っており、今回も同様の公開方法としている。

●他方、選定事業者が決定している現在、引き続き議事録、議事要旨の公表及び、一般の方やマスコミに傍聴いただくことを前提に、次回以降はYouTubeによる配信は行わないこととしたい。

（1）本協議会の運営について

●経済産業省（事務局）より資料3について説明

座長は永尾特任教授、副座長は渋谷理事が選定された。

足利大学（座長）

●協議会の公開方法は事務局から説明があったとおり、次回以降はYouTubeによる配信は行わないこととしたい。

（2）事務局及び選定事業者説明

●経済産業省（事務局）より資料4について説明

●千葉銚子オフショアウインド合同会社より資料5について説明

銚子市漁業協同組合

●現在、促進区域を対象に漁場実態調査を進めている。令和4年度が1年目であり、すでに春・夏の調査は終了し、今、秋の調査を実施し

ている。今後、冬の調査も予定しているため、1年間の調査結果を総括し、令和5年度に向けた調査の方向性を皆さまと調整したいと考えている。

海匠漁業協同組合

- 漁業協同組合の操業に支障がないことが一番大事と考えている。調査や工事を実施する場合、今後も事前に丁寧な説明や情報提供をしてもらうとともに、安全を最優先に対応してもらいたい。
- 今後とも、顔が見える関係を続けていきたいため、発電事業者は引き続き地元と一体となって事業を進めていく気持ちで取り組んでもらいたい。

千葉県漁業協同組合連合会

- 千葉県の漁業振興基金への出捐については、その規模・スケジュール等の協定が済んでいる。1年目の令和4年度はすでに出捐済みであり、スケジュールどおりに進んでいると考えている。
- 今後も、発電事業者との協議は丁寧に進めていきたいと考えている。

銚子市

- 発電事業者より丁寧な説明、特に漁業との共存共栄策、銚子市の活性化につながる共生策などについて説明いただき感謝している。発電事業者には銚子市民に向けた事業説明会も開催してもらっている。
- 銚子市内の中学校での環境教育、銚子市のゼロカーボンビジョンの策定など幅広く支援してもらっている。さらなる地域共生策の実現に向け、今月、三菱商事 銚子支店を開設され、重ねて感謝している。
- 新たな漁場の開発計画、地元商工会議所とともにメンテナンスの受入れを担うC-COWSの成長支援、名洗港の有効活用、地元企業の活用、地域特産品の販路拡大、人材育成、洋上風力と連携した観光施策、災害対策など、その実現を改めて願います。
- 銚子市は令和3年2月にゼロカーボンシティを表明した。自治体新電力である銚子電力株式会社と洋上風力発電を結びつけながら、再生可能エネルギーの地産地消に取り組み、ゼロカーボンシティを目指しているため、引き続き連携と協力をお願いする。
- 要望事項は2点ある。1点目は内水面漁業への影響調査である。地

元の内水面漁業者から千葉県及び銚子市に対して、洋上風力発電施設の建設および稼働に伴う内水面魚種の回遊・遡上、内水面漁業の操業に影響を及ぼす可能性を大変心配している声が寄せられている。また、令和4年4月から5月にかけて発電事業者によって縦覧された「(仮称)千葉県銚子市沖における洋上風力発電事業」の環境影響評価方法書に対して、環境影響評価の実施にあたり詳細かつ長期にわたる内水面漁業への影響調査を求める意見が提出され、発電事業者からは調査等の実施について検討するとの見解が示されている。内水面漁業への影響調査について、この発電事業者の見解に従って誠実に対応してもらうことを要望する。

●環境影響評価方法書に対する2点目の意見は、景観に最大限の配慮を求めるというものである。発電事業者の見解として、地元関係者の方々の様々な意見を踏まえ、風力発電機の配置をはじめ、景観に最大限の配慮を行いつつ事業計画を進める考え方が示されている。国の名勝天然記念物である屏風ヶ浦、富士山の眺望などの景観に対する最大限の配慮を再度要望する。

足利大学（座長）

●2つの要望について、発電事業者および関係者は認識したうえで、対応することを宜しく願います。

旭市企画政策課

- 旭市は地域共生策に対する要望が2つある。1つ目は旭市にある工業高校の教育・人材育成の観点からも検討してもらいたい。
- 2つ目は旭市と銚子市を別に捉えるのではなく、双方の意見を踏まえた広域的な共生策も検討してもらいたい。

千葉県商工労働部

- 発電事業者は本プロジェクトの取組方針として「“つぎ”を創る」をコンセプトに新しい形の発電事業に取り組んでいく、地域活性化にも貢献していくことを説明された。地域と時間的な余裕を持って丁寧な協議を進めていくことも説明された。
- 千葉県は、この洋上風力発電の導入を再生可能エネルギー確保の側面だけではなく、地域活性化につながる重要な事業と考えている。この銚子市沖の事業が大きな成果になるよう発電事業者および関係者の皆さまに引き続き丁寧な協議をお願いします。

●今後のプロセスについて資源エネルギー庁より、地域共生策の具体的な内容は発電事業者にて示された方向性を踏まえ、今後、地元関係者とも引き続き協議していただくことになる。具体的な内容、詳細を詰めるにあたり、地元の意向を反映した共生策となるよう協力をお願いしたい。

●産業振興については、千葉県を含めて地元関係者や発電事業者等と共同で県内企業の参入促進について取組みを進めている。地域活性化につながるためには県内企業が建設工事だけではなく、例えば、風車部品の製造を受注することやメンテナンス業務を担うことが必要である。これらの業務に県内企業を積極的に活用すること、風車部品のサプライチェーンの構築のほか、C-COWSの早い段階からの支援やメンテナンス人材を登用するための施設の誘致などを含めて協力をお願いする。

●洋上風力で発電した再生可能エネルギーの利活用については、銚子市はゼロカーボンシティを目指すことが示されたなかで、この銚子市沖の洋上風力発電事業は非常に注目されているプロジェクトである。この洋上風力で発電した電気を使用していることが、企業にとって大きなセールスポイントになる。銚子市だけでなく千葉県内の多くの企業から洋上風力発電の電気を導入したいという声が、相当数あると考えている。今後、このようなニーズに応じていくことを一緒に検討していきたい。

●千葉県は、令和元年に台風の大きな災害により大規模停電を経験しているため、電力レジリエンスには非常に高い関心を持っている。大規模停電時に通常の送電ができなくなった場合、この洋上風力で発電した電気を無駄にせず、活用できる仕組みを関係者の皆さまと一緒に考えていきたい。

●国には、発電事業者が提案した事業計画が、取組方針にのっとって着実に履行されているかどうかの管理監督についてお願いしたい。

農林水産省水産庁

●発電事業者の説明にあったとおり、引き続き丁寧な対話を重ねるなど、漁業に支障を及ぼさないよう進めてもらいたい。

関東旅客船協会

●環境影響評価のスケジュールでは、令和7年度以降のスケジュールが不明である。特に、令和9年2月に洋上工事が開始される時期に

は、工事前の調査、工事中の調査、稼働後の調査が必要になると考える。新たなスケジュールについて分かり次第、教えてもらいたい。

一般財団法人日本エネルギー経済研究所

●資料5の3ページ目の本プロジェクトの取り組み方針に本質がすべて含まれていると認識した。発電事業者は地域との共生策を一緒に考え、その仕組みを丁寧に情報開示するとともに、地元関係者との協議を通じて実現していくことを認識した。

●大事なことは成功裏として進むこと、並行して発電事業の持続性に留意して進めていくことを期待する。洋上風力のエネルギー政策や温暖化政策での重要性は社会的に注目度が高いため、今後は後発になる他の促進区域等に向けたベストプラクティスになる様な運用を期待する。

一般社団法人海洋産業研究・振興協会

●漁業協調型の洋上風力を掲げて、平成25年に提言を発表し、漁業協調メニューなどを提案してきた。そのなかには、風車基礎の魚礁利用、漁業者の事業参加、保守点検、O&M、海洋情報の漁業への利用などをメニューとして示してきた。約10年経ち、本日の発電事業者の説明を聞いて提案に近づいてきたと感じる。

●総合商社のネットワークを活かした地域振興策は私どもの想像を上回る内容も含まれ、実現によって地域振興あるいは漁業活性化につながると期待している。

●漁業共生策の実行にあたっては、漁業共生センターとの連携が重要になるため、緊密な連絡を取り、30年にわたる長い事業を進めてもらいたい。

一般社団法人海洋エネルギー漁業共生センター

●銚子市沖の洋上風力発電事業は着床式としてトップバッテリーになる存在と考えている。このトップバッテリーとしての認識を発電事業者および地域の方々も持っている。

●その一つが地域振興や漁業振興のための具体的な組織があることが非常に大きいと考えている。各々の組織がすでに責任を持って具体的な活動に入り、地域の自治体、商工関係者、漁業関係者と発電事業者が非常に良好な関係を構築しており、誠意ある発電事業者の事業展開が良いものを生むと感じている。

●銚子市沖の洋上風力発電事業は銚子のみならず、これからの日本の洋上風力の見本になるように事業展開していくことが大事であるとする。

●経済産業省（事務局）より資料6について説明

足利大学（座長）

●特に意見がないので、今後の協議会の進め方は事務局案のとおりとする。本日は、事業の進捗に関して現状の報告、今後の方向について議論した。その他、いくつかの懸案事項や提案もあったので、次回までの作業の中で配慮しながら進めていただきたい。

以上